

多気地域小学校統合にかかる3小学校（佐奈、津田、外城田）先行統合について

令和 6 年 11 月

多気町教育委員会

1 3校先行統合の目的

令和 13 年度に多気地域の小学校統合が決定されている中で、子どもたちが少しでもスムーズに新しい学校に馴染めること、明日また行きたいと思う学校となるよう、子どもたちの学校での居場所づくり、友だち・仲間づくりを一番の重点として考えます。

子ども同士が豊かな人間関係を築き、社会性を身につける場である小学校は、多様な教育活動が展開できる適正な学校規模が必要です。また同時に、「小規模校の学級数の減少が学校運営全体に与える影響」、「教職員への負担の影響」も鑑みる必要があります。

このために、まずは令和 13 年度統合の 3 年前にあたる令和 10 年 4 月に、佐奈・津田・外城田 3 校の小規模校を統合します。

3 校統合により、令和 13 年度の相可小学校との統合時の数的な差を縮め、1 度に 4 校統合ではなく段階的にしていく事で、児童の不安を少しでも和らげたいと考えます。

2 場所・方法

3 校統合校の場所は、校舎の状況、床面積、運動場面積の大きさ、スクールバス通学を想定した接道状況等を考慮した結果、現佐奈小学校とします。

また、3 校統合校は、令和 13 年度統合校の前身校とし、学校名・校旗・校章・校歌を新たに決定し、令和 13 年度統合後も使用することを前提とします。

学校運営（めざす学校像・教育課程・指定用品等）、学校関係組織（学校運営協議会・保護者組織等）についても、令和 13 年度統合後も引き継ぐことを前提として、組織づくりをすすめます。

現相可小学校についても、統合する他の 3 小学校と同時に閉校することも視野に入れ、3 校統合校と同じく、新校名・新校歌等、統合校の学校運営も取り入れ、令和 13 年度統合へ向けての準備期間としてスタートし、学校運営や学校関係組織について、令和 13 年度統合を前提とした 3 校統合校とのさらなる協議、連携を行っていきます。

佐奈小学校、津田小学校、外城田小学校の概要

校名	建 物	建築年度	構造/階数	床面積 (㎡)	経過年数 (令和 6 年現在)	耐震性
佐奈小	校 舎	2006 年 (H18)	RC 造/2 階	2,748	18 年	有
	体育館	1982 年 (S57)	RC 造/1 階	680	42 年	有
	敷地面積	14,696 ㎡		運動場面積 6,024 ㎡		

津田小	校 舎	1971 年 (S46)	RC 造/2 階	1,589	53 年	有
	体育館	1981 年 (S56)	RC 造/1 階	680	37 年	有
	敷地面積	9,957 m ²		運動場面積 3,903 m ²		
外城田小	校 舎	1989 年 (H1)	RC 造/2 階	2,344	35 年	有
	体育館	1984 年 (S59)	RC 造/1 階	680	40 年	有
	敷地面積	13,956 m ²		運動場面積 5,319 m ²		

現 在

令和10年度

令和13年度

- ・相可小学校
- ・佐奈小学校
- ・津田小学校
- ・外城田小学校



相可小学校

3校統合校
(佐奈、津田、外城田)



新しい小学校

3 児童数の推移

児童数の現状は、(1) のとおりです。現在のままでは、津田小学校は、令和8年度～12年度の5ヵ年(R10、12年度は2複式)、外城田小学校は、令和9年度～12年度の4ヵ年(R11、12年度は2複式)が複式学級編成となる見込みです。

令和10年度に3校統合した場合、複式学級は、津田小学校R8.9年度(2ヵ年)、外城田小学校R9年度(1ヵ年)となる見込みです。

(1) 児童数の現状

(令和6年5月1日)

学校名		佐奈小学校		津田小学校		外城田小学校		計
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
学 年	1 年	13	1	8	1	10	1	31
	2 年	6	1	13	1	9	1	28
	3 年	15	1	8	1	13	1	36
	4 年	9	1	12	1	13	1	34
	5 年	12	1	11	1	9	1	32
	6 年	7	1	10	1	7	1	24
	特支	4	1	4	1	3	1	11
	計	66	7	66	7	64	7	196

(2) 児童数の推計（令和 10 年度）

学校名		佐奈小学校		津田小学校		外城田小学校		計	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
学 年	1 年	8	1	6	1	9	1	23	1
	2 年	15	1	7	0	3	0	25	1
	3 年	11	1	9	1	5	1	25	1
	4 年	15	1	8	0	7	1	30	1
	5 年	13	1	8	1	10	1	31	1
	6 年	6	1	14	1	10	1	30	1
	計	68	6	52	4	44	5	164	6

※特別支援学級児童数は普通学級に含む

4 3 校先行統合の主な課題

(1) 調整、協議（令和 7 年度から始動）

- ・ 学校運営
- ・ 3 校統合時における通学手段（通学バス他）
- ・ 学校名、校旗、校章、校歌
- ・ 各校の閉校式、開校式等の式典行事
- ・ 学校関係組織
- ・ その他

(2) 子どもたちの環境変化による影響

令和 10 年度に先行して 3 校統合をした場合、令和 13 年度の統合で 2 度の統合を経験することとなります。これは、子どもたちにとって 2 度のストレスがかかると考えられますが、一方で 1 度経験しているから 2 度目のストレスは軽減されるという考え方もできます。

幼少期において、そういった環境の変化に適応していく経験を積むことは、決してマイナスではなく、子どもたちの成長過程において、ある程度のストレスと多様な経験は、今後、社会に出るうえで自分自身を支える大きな力になります。

教職員も同様に、3 校統合時の経験を令和 13 年度統合時に活かすことができます。

また、特別支援籍の子どもたちや普通学級籍であっても発達に問題を抱える子どもたちの中には、環境の変化に敏感で、変化の対応に苦慮される子が現れるのは予測されます。

そのような状況の中でも、一人ひとりに応じた対応ができるよう、教育学や医学、心理学等の専門的な見地からの意見もいただき、様々な機関との連携を密に取っていきます。さらに、3 校統合校へは学校支援員等の増員、統合時の加配等

により、人的な補助が必要であると考えています。

(3) 教職員及び学校関係組織への負担

令和 10 年度に 3 校統合を実施する場合、約 2 年半の期間で協議と決定が必要となるため、過密なスケジュールとなることが予想されます。しかし、3 校統合後から令和 13 年度統合までの 3 年間については、組織運営等を見直し、改善できる期間でもあり、段階的に統合を進めることにより、令和 13 年度統合時の教職員と学校関係組織の負担軽減を図れると考えます。

また、3 年間 3 校統合校と現相可小学校の 2 校の関係者が、調整・連携をとることにより、情報共有とコミュニケーションも取れることから、学校関係組織等の大人も、新しい学校に馴染めて、スムーズに令和 13 年度統合校をスタートできるのではないかと考えます。